

新型コロナウイルス感染症との戦いで、 奈良医大医療チームの「Microsoft Teams」を活用した成果事例を Microsoft社が自社ホームページで紹介

- ・奈良医大は、2020年1月25日に日本人の最初の新型コロナウイルス感染症患者を受入れ、我が国でも初めての症例であり、ルールも無い中でコロナ治療のスタートを切りました。
- ・対応には、病院長や複数の医師、病棟の看護師、感染管理・病院経営管理・情報インフラ管理、の各担当等多くの専門分野メンバーがチームを構成し、患者の治療や管理に当たっており、これら関係者の密な情報共有は必須でした。



この課題対応に、感染症センターの笠原敬教授らは、2019年から奈良医大が導入していた「Microsoft Teams」をフル活用することとして、コロナ治療や看護情報を一切Teamsに蓄積して、対応状況や最新情報の共有を図り、現場での適切な判断を支援。関係者の連絡もリアルタイムで行うことで、チーム運営の円滑化や、更には若手医師の人材育成にまで活用して、大きな成果を上げることができました。



- ・MBTコンソーシアムは、これらの取り組みや活用成果内容を聴取し Microsoft社広報への連絡や橋渡し役を行い支援しました。
- ・Microsoft社は、Teamsユーザーの活用成果を自社ホームページに掲載しユーザへの便宜を図っており、奈良医大の取組もユーザー紹介にふさわしい内容と判断され、今回のホームページ紹介につながったものです。Microsoftのホームページでの掲載内容は下記URL,およびQRコードからご覧になれます。

↑Microsoftによる奈良医大の
取材風景

<https://customers.microsoft.com/ja-jp/story/1523764573482577174-nara-higher-education-microsoft-teams-ja-japan>



→Microsoft
ホームページに
掲載の冒頭部分

